

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	旭区
学 校 名	大阪市立大宮小学校
学校長名	丹羽 和江

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立大宮小学校では、第6学年 58 名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数ともに全国平均を上回ることができた。
 国語は、9.8ポイント、算数は、9.5ポイント上回った。
 平均無回答率も全国平均より下回っており、全ての項目において、全国平均を上回る結果となった。
 特に国語科の「書くこと」についての正答率は、13ポイントも上回ることができた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

A話すこと・聞くこと、B書くこと、C読むこと、の指導要領の内容において、10ポイント全国平均を上回った。強いて言えば、言語事項に関する項目で苦手意識をもつ児童が見られた。

特に、B書くことにおいては、全国平均より13.0ポイント上回ることができた。これは、これまでに必要に応じて資料を用いて、自分の考えを分かりやすくまとめたり、発表するなどの機会を設定し、筋道立てて書くように指導してきた結果だといえる。

課題としては、言語事項の中の漢字・敬語にかかわる部分を苦手とする児童が多いことが分かった。ただ単に漢字や敬語を教え込むのではなく、部首ごとに関係する漢字を学習したり、実際に敬語を使う場面を想定させたりと生きた学習を行うことでさらに力をつけていきたい。

【算数】

A数と計算、B図形、C変化と関係、Dデータの活用、全ての指導要領の内容において全国平均を上回った。A,C,Dは、10ポイント上回ることができ、よくできているといえる。強いて言えば、B図形において苦手意識をもつ児童がいる。

特に、Dデータの活用においては、12.1ポイント上回ることができた。これは、算数科だけに限らず、他の教科においても、資料を読み取ってデータを活用し、表現する機会を作ってきた結果だといえる。

課題としては、B図形の学習における苦手意識をなくしていく必要があると考える。頭の中だけで図形をイメージし、形を展開していくことは難しいので、具体物から半具体物、そして頭の中で図形をイメージする力を高めていきたい。また、作図する力を高め、図形の性質や求積の方法の定着に努めていきたい。

質問紙調査より

「将来の夢や目標を持っていますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」「英語の勉強は好きですか」などの項目が、全国と比べて肯定的に答える割合が高い。道徳教育を推進し、友達の大切さについて考える機会を多く取り入れてきたためと考えられる。また、多国籍な学校で外国の友達が多い学校であり、英語についても親しみをもって取り組めているため、「外国」にかかわる質問項目が高くなったと考えらる。

書籍を充実させたり、こども新聞や新聞をいつでも手に取れるようにしたりしているが、「読書は好きですか」という質問には、肯定的な回答が全国より低い。また、校則について考える活動を取り入れたが、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか」という項目についても全国平均を下回っている。実生活で生かす場面を想定し、学習活動の中に取り入れてきたつもりであったが、こちらの指導計画と児童の実態に乖離が見られた。

今後の取組(アクションプラン)

- 今年度は、教科横断的な学習を意識し、実践を進めている。自分の考えを持ち、分かりやすく説明する力をさらに伸ばし、様々な場面で培った力を表現できるようにしていく。
- 語彙指導など、基礎基本の習得を繰り返し行うだけでなく、言葉のグループ分けをしたり、調べ学習を行ったりし、楽しみながら言葉についての学習を進めていく。
- オーサービジットなど著者を招聘し、読書活動をさらに充実させていく。

【 全体の概要 】

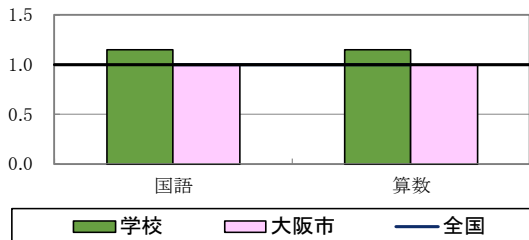
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	77	72
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

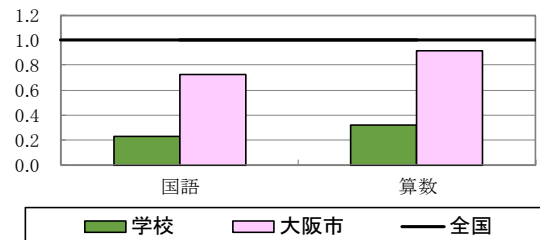
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	1.1	1.1
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



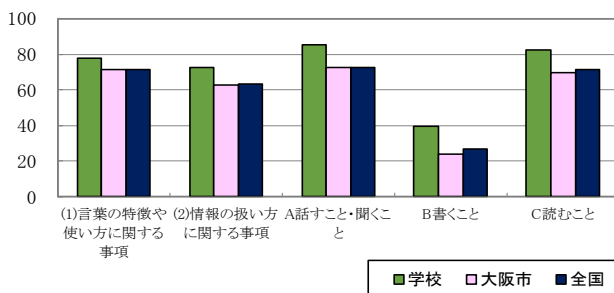
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	77.9	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	72.4	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に 関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	85.6	72.4	72.6
B 書くこと	1	39.7	24.2	26.7
C 読むこと	3	82.2	69.9	71.2

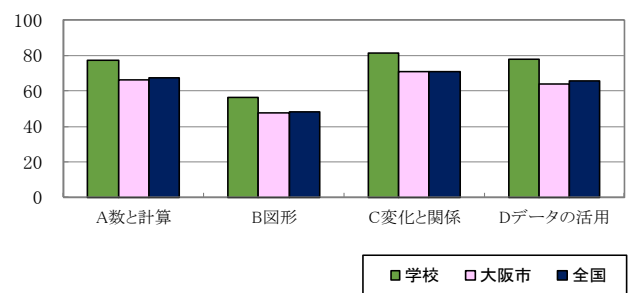
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	77.3	66.1	67.3
B 図形	4	56.0	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	81.0	70.8	70.9
D データの活用	3	77.6	63.6	65.5

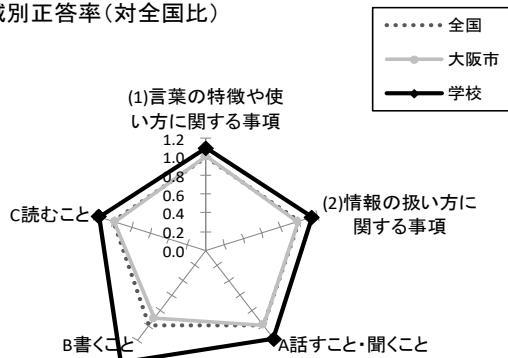
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



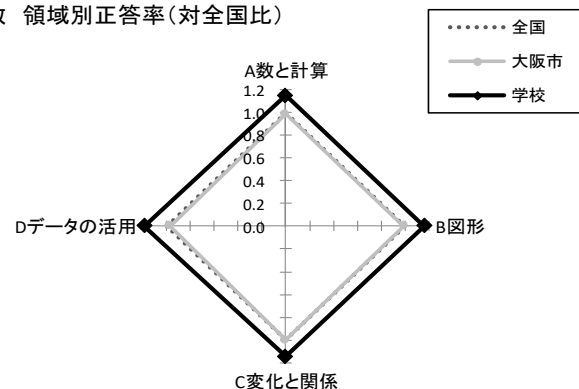
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)



児童質問紙より

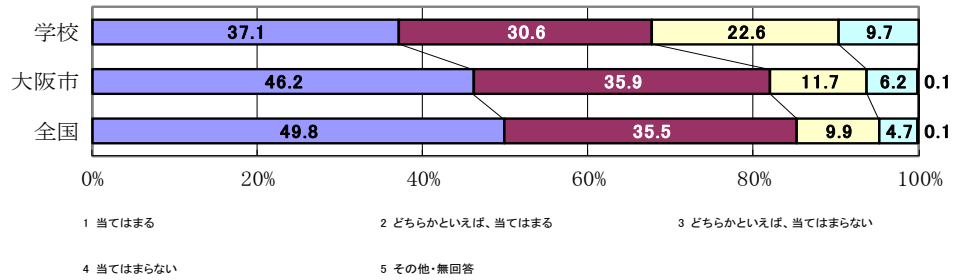
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

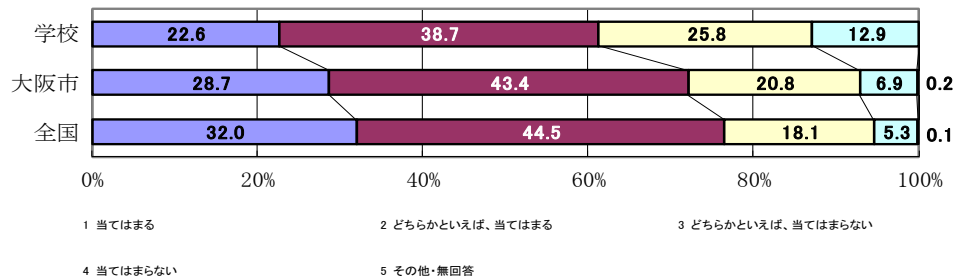
12

学校に行くのは楽しいと思う



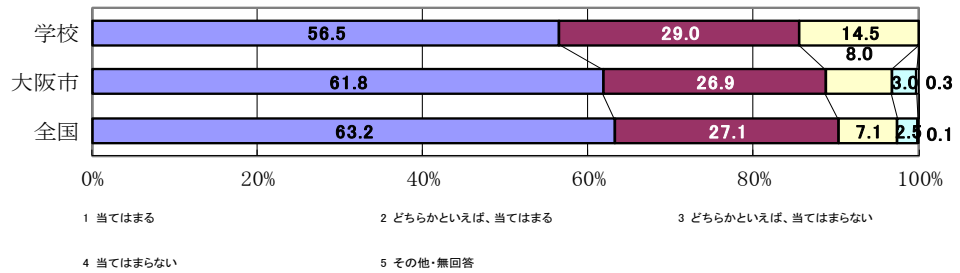
13

自分と違う意見について考えるのは楽しい



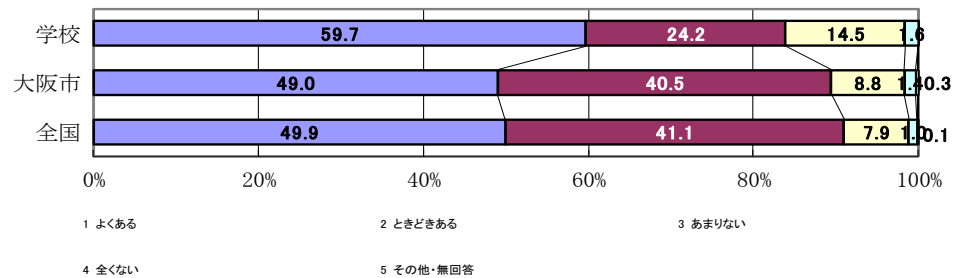
14

友達関係に満足している



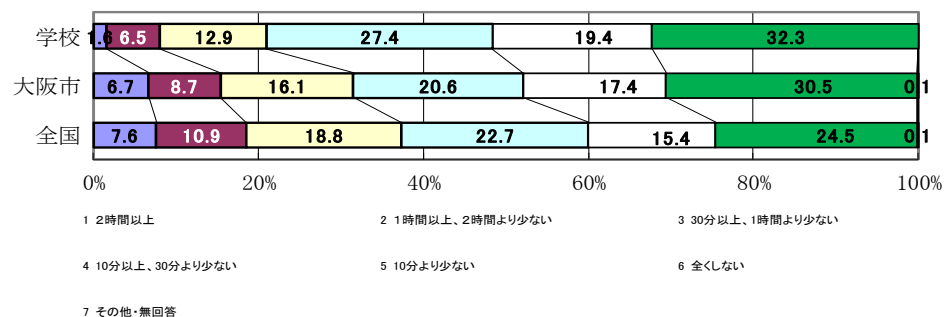
15

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



20

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

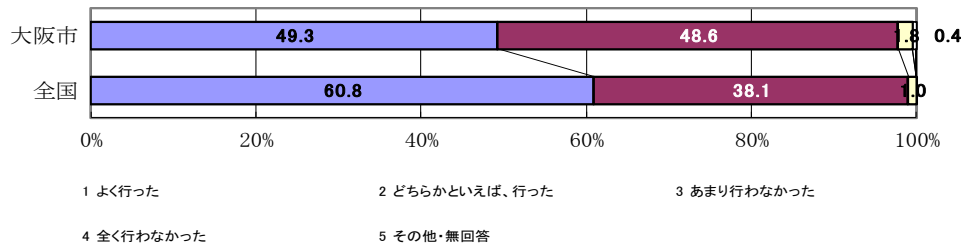
質問番号

質問事項

13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

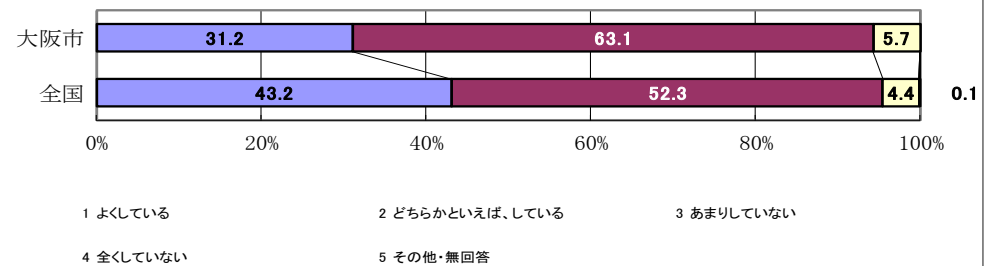
学校 「よく行った」を選択



20

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

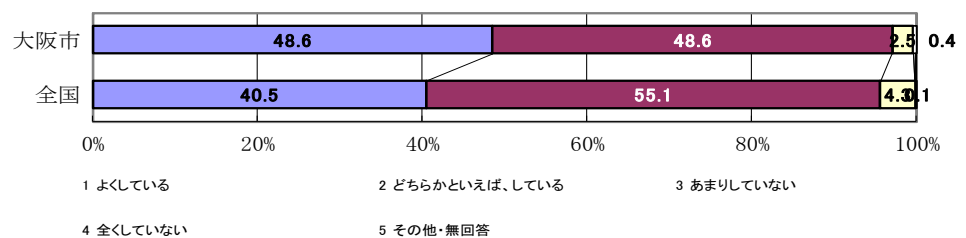
学校 「よくしている」を選択



21

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいる

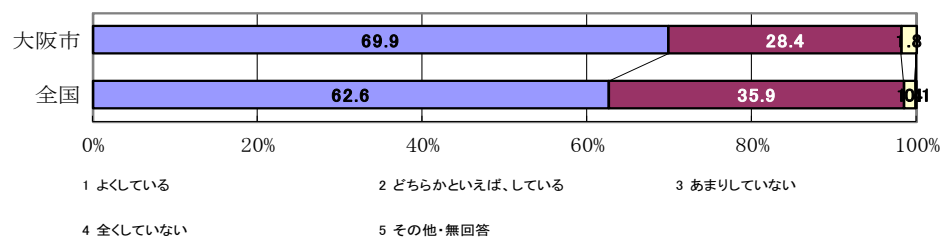
学校 「よくしている」を選択



22

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

学校 「よくしている」を選択



50

英語の授業以外にも児童が英語に触れる機会(イングリッシュキャンプ、English Day、昼休みの英語での放送等)をどの程度設けていますか

学校 「ほぼ毎日」を選択

